

## 葛井寺

葛井寺は、紫雲山二宝院剛琳寺と号し、剛琳寺ともいいます。古代氏族葛井氏の氏寺として、七世紀後半に建立されました。西国三十三箇所観音霊場の第五番札所として全国から多くの参詣者が訪れます。

本尊の乾漆千手觀音坐像は国宝、四脚門は重要文化財に指定されています。毎月十八日には、本尊の国宝乾漆千手觀音坐像が公開されます。

(地図①)



室町時代には春日の神を祀り、春日丘にその名を残しています。その後、明治時代になつて長野神社を合祀しました。



## 辛國神社

「延喜式」にも記載のある古い歴史をもち、物部の祖を祀ったことに始まります。

深い緑に包まれた長い参道は「大阪みどりの百選」にも選ばれています。

なお「延喜式」とは平安時代に編纂された法令集で、その神名帳に記載のある神社を一般に式内社と呼ばれます。

(地図③)



## 志貴県主神社

この地域に志紀県という大和朝廷の直轄地があり、それを治めていた豪族志紀県主が奉斎していたことから、この社名の由来と推測されます。

志紀県主の祖先神で神武天皇の長子である神八井耳命を祭神とし、「延喜式」でも天押日命を祭神とします。



道明寺天満宮は、もと土師氏の氏神として成立し、のちに土師氏の子孫でつながりの深い菅原道真公を祭神に加え天満宮として成立しました。宝物館には、国宝である伝菅公遺品のはか多くの文化財が所蔵されています。

また、梅の名所としても名高く、毎年二月から三月上旬に開催される梅まつりには全国から多くの参拝者が訪れます。

(地図⑯)



## 伴林氏神社

「延喜式」にも記載された古い神社であり、高皇產靈神を主祭神とし、古代豪族の大伴氏やその一族林氏の祖先神である道臣命と天押日命を祭神とします。

軍事を司った大伴氏の祖神道臣命を唯一祀る神社で「西の靖国神社」と称され、昭和十五年の新社殿完成の際には、靖国神社より明治五年に建築された手水舎が移築されました。

(地図⑦)



道明寺は七世紀中葉に土師氏の氏神として建立された土師寺を起源とし、建立当初は道明寺天満宮の南側參道付近に位置し、現在も塔心礎が残っています。

その後、戦国時代の戦火や江戸時代の石川の洪水による荒廃が原因で道明寺天満宮の境内地に移り、さらに明治時代の神仏分離令によって現在地に移されました。

国宝である本尊の十一面觀音立像は正月三箇日、毎月十八日と二十五日に拝観することができます。

(地図⑯)



## 黒田神社

「延喜式」にも記載された由緒ある神社で、中世より北條天神または天王と呼ばれ、府下でも祭祀する神社は非常に稀です。

主たる祭神の天御中主神は神徳も高く、本殿脇には南北朝時代に造られた建徳

三年と刻す石燈籠が一基あり、市指定文化財になっています。

(地図⑧)



## 産土神社

室町時代には神仏習合思想のもとに神宮寺として再建され、明治時代の初期まで祭神を牛頭天王としていました。その後、神仏習合の習慣を禁止する神仏判然令により小

山牛頭天王社から進雄神社に改められ、現在は産土神社として、素盞烏命他一柱を祭神として祀っています。

本殿は一間社流造で、墓石は桃山様式をもじ、虹梁や木鼻等は江戸時代前期のものと推定されます。本殿の主要部分は創建当時の状態をよく止めしており、藤井寺市内で最古級の神社建築として大変貴重です。

また、境内には金刀比羅神社と稻荷神社が祀られており、市内では珍しい存在です。

(地図⑤)



古室山古墳

(地図⑯)



## 古室山古墳

古市古墳群形成期の四世紀後半に築造された墳丘長百五十mの前方後円墳です。

内部施設や副葬品については不明ですが、円筒埴輪列が確認されており、家、盾、

玉、石製腕飾類等が出土しています。

後円部頂は宮内厅によつて陵墓参考地として管理されています。

また、内濠の島状施設から出土した水鳥形埴輪は国の重要文化財に指定され、アイセルシユラホールに展示されています。

(地図⑯)



## 古室山古墳

五世紀前半に築造された大型前方後円墳です。台地の最高所に位置し、墳丘長は二百九十五mで、古市古墳群では応神天皇陵

古墳に次ぐ大きさを誇ります。

内部施設や副葬品については不明で、外

堤上で円筒埴輪列は確認されていません。

外側の溝から出土した埴輪は、窯窓で焼成されています。その整美な外觀は古墳時代中期の代表的な墳形といわれています。

内部施設や副葬品については不明で、外

堤上で円筒埴輪列は確認されていません。

昭和五十三年に八嶋塚古墳と中山塚古墳の間に周濠底部分から大小の修羅が見つかり話題となりました。

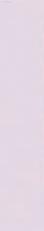
一边三十六mの助太山古墳は国の史跡にも指定されています。

昭和二十一年には発掘調査が行われ、円筒埴輪列、二基の石棺が確認されました。

二基の石棺は遠く九州の阿蘇山で出土する溶結凝灰岩製の削抜式家形石棺で、大阪府の有形文化財に指定されています。

明治時代に銅器、鉄劍、甲が出土したと伝えられ、現在ボストン美術館に所蔵されている神人画像鏡は、この時出土したものといわれています。

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

仲姫皇后陵古墳の南側に東西方向に並んだ三基の方墳の総称です。東から八嶋塚古墳、中山塚古墳、助太山古墳といいます。

三基の古墳は周濠を共有し、南辺を揃える特異な景観をしています。

台地の高所に位置するため眺望は隨一で、季節によって梅や桜を楽しむことができます。

台地の高所に位置するため眺望は隨一で、季節によって梅や桜を楽しむことができます。

古墳は宮内厅によつて管理され、一回り小さく、多くの市民に親しまれています。

特異な景観をしていて、多くの市民に親しまれています。

昭和五十三年に八嶋塚古墳と中山塚古墳の間に周濠底部分から大小の修羅が見つかり話題となりました。

一边三十六mの助太山古墳は国の史跡にも指定されています。

昭和二十一年には発掘調査が行われ、円筒埴輪列、二基の石棺が確認されました。

二基の石棺は遠く九州の阿蘇山で出土する溶結凝灰岩製の削抜式家形石棺で、大阪府の有形文化財に指定されています。

明治時代に銅器、鉄劍、甲が出土したと伝えられ、現在ボストン美術館に所蔵されている神人画像鏡は、この時出土したものといわれています。

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳

(地図⑯)



## 三ツ塚古墳